

消雪が遅れる見込みのため、低温時の種子準備や本田作業は控えましょう

1 本田の消雪予想について

本年は平年より積雪が多いため、消雪予測の推定式※で、高田で3月24日頃と平年より2週間程度、遅れる見込みとなっています。種子準備や浸種が早いと育苗時の発芽不良や低温障害につながります。天候に合わせて作業が早くならないよう注意しましょう。

※1987年「北陸地域における根雪消雪日の予測と消雪促進可能日数の推定」の推定式を用いて算定

2 ほ場準備と土づくりについて

- 育苗予定地の消雪が遅れる場合は、機械除雪や融雪促進資材を活用しましょう。
- 畦畔の補修やあぜ塗りをを行い、畦畔の亀裂やねずみ穴等からの漏水対策を徹底しましょう。
- 高温に強い稲づくりのために、土づくり肥料や有機物を積極的に施用し、土壌の保水力を向上させましょう。
- ※リン酸、加里の少ない低コスト肥料を使用する場合は、事前に土壌診断を行い、リン酸・加里が不足していないことを確認しましょう。

3 種子の休眠と浸種時の注意点

- 令和2年産の種子の休眠は、コシヒカリBLは「前年産種子以上に深い」と推定されます。
- 浸種には必ず清水を用い、水量は籾容量の2倍程度(種子1kgに対して約3.5リットル)とし、酸素不足を防止しましょう。
- 通常は、水温10℃～15℃で積算水温100℃がめやすです。休眠が深いと推定される「コシヒカリBL」や、休眠が深いことがある「つきあかり」については、水温12℃で積算水温120℃をめやすとした浸種を行い、発芽揃いを良くしましょう。
- 消雪が遅れ気温が上がりにくいことが予想されます。また低水温は発芽不良を起こす場合があるので、浸種はじめの水温が10℃より低くならないよう注意しましょう。

4 全量基肥肥料(一発元肥)の施用量の留意点 ～適正な使用で、適正生育量の確保を～

全量基肥肥料は穂肥相当の窒素を緩効性肥料で調節した肥料で、一般的に5月15日頃の田植を前提としています。田植作業が大きく遅れる場合は、倒伏につながる時期に肥効が現れるため、施用時期や施用量を変更する必要があります。また全量基肥肥料を施用した場合は、中干し作業は6月中旬までに完了するとその後の肥効が安定し、管理が容易になるので遅れずに実施しましょう。

(1) 5月25日以降に田植となる計画の場合は、以下に注意しましょう。

ア 事前に春先の耕うん時に本田に、全量基肥肥料を施用しましょう。

イ 側条施肥を行う場合は、肥効期間が短い早生用等の全量基肥肥料へ変更し、施用量を1～2割減肥します。

(2) 田植の早晚に関わらず、中干しは6月半ばから開始しましょう。

表1 平坦地の側条施肥の施用目安(全層施肥時の1～2割減の施用量とする)

品種	田植日	窒素成分量 (kg/10a)	参考資材名	留意点
つきあかり	5月15日頃までに田植	7～9	早生多収米一発元肥307	※移植は5月20日以降とならないようにしましょう。
こしいぶき		6	早生スーパー元肥パワフル30	
コシヒカリ	5月20日までの田植	4.9	えちご上越チャレンジャー100	
	5月25日以降の田植	4.0～4.4	早生スーパー元肥パワフル30	
みずほの輝き いただき	5月20日までの田植	7.2～8.1	晩生用高窒素一発肥料	※移植が5月25日以降の場合は分肥へ変更しましょう。

表2 中山間地の側条施肥の施用目安(全層施肥時の1～2割減の施用量とする)

品種	田植日	窒素成分量 (kg/10a)	参考資材名	留意点
つきあかり	5月15日頃までに田植	7～9	早生多収米一発元肥307	※移植は5月20日以降とならないようにしましょう。
こしいぶき		6	早生スーパー元肥パワフル30	
コシヒカリ	5月20日までの田植	5.8 ～ 6.5	えちご上越チャレンジャー100	
	5月25日以降の田植	5.2 ～ 5.9	早生スーパー元肥パワフル30	
みずほの輝き いただき	5月20日までの田植	7.2 ～ 8.1	晩生用高窒素一発肥料	※移植が5月25日以降の場合は分肥へ変更しましょう。

※年末から続く大雪による被害を受けられた方々に、心からのお見舞いを申し上げます。

※今後の育苗管理等の技術的なご相談に対応していますので、お気軽に下記連絡先等へご連絡ください。

※育苗ハウス被害により露地プール育苗へ変更される方は、次回(3/15の発行予定)以降の情報も参考にしてください。

お問い合わせ先(TEL) 上越農業普及指導センター：025-526-9406・JA えちご上越農業対策課：025-527-2050